

今後の検討の進め方（案）

【参考】第16回国立公文書館の機能・施設の
在り方等に関する調査検討会議資料より

今後の進め方

平成28年度

衆議院議院運営委員会新たな国立公文書館に関する小委員会（以下「小委員会」という。）における本年5月の決定を踏まえ、基本計画の策定に向けた調査検討を開始。調査検討会議において、ワーキンググループ（WG）を開催して諸室の規模・機能等について検討し、新たな国立公文書館に必要とされる施設の在り方に係る検討を進めるとともに、内閣府において敷地の概況等に関する調査を実施し、これらの結果に基づき内閣府から小委員会に報告。

平成29年度

小委員会における議論を踏まえ、諸室のレイアウト、施設の整備方針（耐久性、ユニバーサルデザイン、環境配慮等）等の事項について更に調査検討を行い、調査検討会議において基本計画策定に向けた報告を取りまとめ、これに基づき政府において基本計画を策定。基本計画の策定と並行して、PPP/PFI手法の導入の適否に関する検討を開始。

設計、建築

【参考】基本計画に盛り込む事項（イメージ）

- 経緯・背景
- 使命、目指すべき方向
- 施設整備計画
（諸室の規模・機能、全体の規模、諸室のレイアウト、施設の整備方針等）
- 敷地の概況等
- 運営方針・体制
（広報、外部とのネットワーク、人材計画等）
- その他
（建設に向けた事業の進め方等）

※下線 = 今年度調査検討会議で主に御検討いただく事項

今年度の検討体制

【参考】第16回国立公文書館の機能・施設の在り方等に関する調査検討会議資料より

国立公文書館の機能・施設の在り方等に関する調査検討会議（親会議）

展示・学習等WG（仮称）

【検討内容】

- 公文書等を分かりやすく見せるための展示・学習の在り方（テーマ、手法等）及び必要な設備
- ※効果的な広報、集客手法、他機関とのネットワークについても検討。



【委員選定の考え方】

展示の専門家（キュレーター等）、教育・学習の専門家、広報の専門家

保存・利用支援等WG（仮称）

【検討内容】

- 文書の保存・修復、調査研究支援、デジタルアーカイブ等の在り方及び必要な設備



【委員選定の考え方】

保存科学、修復の専門家、歴史学・記録史料学の研究者

※全体としての一体性、一貫性を確保するため、各WGに親会議構成員1～2名が所属。

- ※ 適宜、国立公文書館からのヒアリング等を行い、資料の受入れや収集、デジタル化等に係る同館の将来計画を踏まえて検討を進める。
- ※ さらなる専門的な知見が必要な場合は、適宜有識者からのヒアリング等を実施する。

【参考】第16回国立公文書館の機能・施設の
在り方等に関する調査検討会議資料より

今年度の進め方

平成28年

7月

《調査検討会議（親会議）》

第16回
(今後の進め方等)

11月頃

第17回
(調査検討状況の報告)

平成29年

年初～

衆議院小委員会
に報告

2回程度開催

《展示・学習等WG》

1～2か月に1回程度開催

報告

《保存・利用支援等WG》

1～2か月に1回程度開催

報告

憲政記念館敷地に関する調査

保存・利用支援等WGにおける主な検討事項

国立公文書館に求められる機能

各種機能に係る今後の展望

収集・情報提供機能

- ① オーラルヒストリーの実施等による収集活動の拡大
- ② 収集に係る情報集約・広報強化
- ③ デジタルによる他機関所蔵文書の収集及び所在情報の横断的な集約・提供
- ④ ①～③のための体制や施設整備及び予算確保
- ⑤ 立法府文書の移管に係る積極的検討

展示・学習機能

- ① 国際的水準を満たした展示施設の整備
- ② 魅力ある展示手法の開拓
- ③ 学校教育との連携による学習活動の積極的展開
- ④ 専門性をもった職員の育成・確保及び外部との連携による担い手の充実

保存・修復機能

- ① 受入れ文書の拡大や利用の増加にも対応し得る書庫の整備
- ② 適切かつ効率的な保存環境の確立及びバックアップ設備の整備
- ③ 修復のための設備の充実と体制強化
- ④ 保存・修復に係るセンター機能の確立

調査・研究支援機能

- ① 快適で利便性の高い閲覧室の整備と出納システム等の合理化
- ② 利用者が調査研究を深めるための設備の充実
- ③ 充実した利用サービス提供による来館利用の付加価値向上

デジタルアーカイブ機能

- ① 修復と連携したデジタル化の拠点の整備
- ② 我が国全体としての歴史資料のデジタルアーカイブ化の推進

人材育成機能

- ① 国立公文書館の機能拡大を支える人材の確保・長期的育成
- ② 我が国全体としての専門家育成（研修対象の拡大）
- ③ 大学・大学院と連携した人材育成の深化
- ④ 資格制度の確立に向けた検討

情報交流機能

- ① 広報活動の戦略的強化と体制整備
- ② 国立公文書館を拠点とした交流の促進

今後の展望

【主な関連諸室】

- ・ 書庫
- ・ 修復施設
- ・ 閲覧室
- ・ デジタル化施設

※ これらの附帯施設等も含む。

+

国立公文書館における今後の具体的な取組計画

これらを踏まえ・・・

- ・ 新たな施設の整備を視野に入れた今後の活動の展開の在り方。
- ・ 新たな施設において関連諸室が備えるべき機能・設備及び規模。

各回における主な検討事項

※ 議論の進捗状況等により、適宜調整。

第1回

- テーマ：修復機能、デジタルアーカイブ機能に関わる施設等の在り方
- 検討対象の施設：修復施設、デジタル化施設及びこれらの付帯施設
- 進め方：（１）国立公文書館からの説明
（現在の取組と施設面の問題点、当面の取組計画及び新たな施設への期待）
（２）意見交換

第2回

- テーマ：保存機能、調査研究支援機能に関わる施設等の在り方
- 検討対象の施設：文書の受入作業施設、保存作業施設、書庫、閲覧室及びこれらの付帯施設
- 進め方：（１）国立公文書館からの説明
（現在の取組と施設面の問題点、当面の取組計画及び新たな施設への期待）
（２）意見交換

第3回

- テーマ：とりまとめに向けた議論

・
・ ※ 必要に応じて更に開催。

- 各回における議論の成果は、事務局においてまとめ、メール等で各構成員に照会。
- 展示・学習等ワーキンググループと適時議論の状況を共有。

関連諸室に関する議論の取りまとめイメージ ※ デジタル化関連施設の例

基本的な考え方			現在の床面積 (参考)
主な室構成	用途	求められる機能・設備	
作業準備室	<p>WGにおける議論を踏まえて記載。</p> <p>【「求められる機能・設備」の記載イメージ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ ○名程度の作業スペース、××○台の設置スペースが必要。 ◎ ×× (=利用者層) ○名程度の利用を想定。 ◎ 温度○度、相対湿度○度に設定 (×××に基づく)。 ◎ ××に対応した××の設備が必要。 ××への配慮から、○階以上への配置が望ましい。 ◎ ××機能との連携のため、××からの動線に配慮。 ××機能との連携のため、××と同フロアが望ましい。 <p>※ ◎:優先度が高い項目</p>	— (地下通路等を利用)	
複製物作成室		—	
撮影スタジオ		—	
資料保存庫		—	

WGにおける議論を踏まえて修正・追加。

・修復と連携し、効率的にスキャンニング等の作業を進めるための十分なスペースを確保。

※ 「主な室構成」は、国立公文書館提出資料（資料4）を基にした仮記載。

※ 「基本的な考え方」は、「国立公文書館の機能・施設に関する基本構想」の関連部分を基にした仮記載。